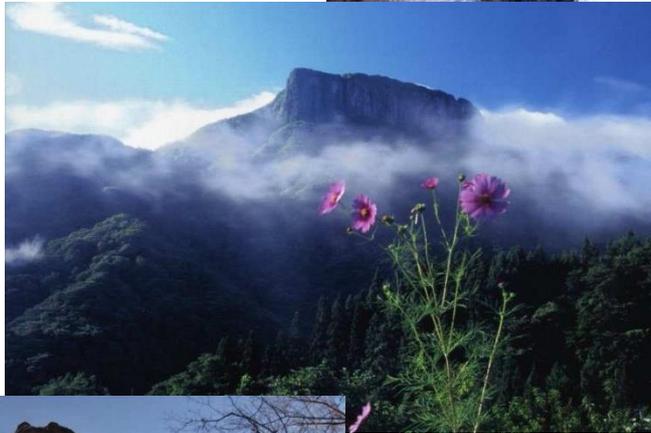


令和2年度 町勢要覧



群馬県 下仁田町

発刊のごあいさつ



日頃より当町の行政運営にご理解を賜り、改めまして御礼申し上げます。

例年発刊いたしますこの町勢要覧は、町の人口・産業・行政・財政などの情報を全般的に網羅し、関係各位と情報を共有するなど多様な場面でご活用いただけます。

本年は、東京オリンピック・パラリンピックが計画され、国民行事として明るい話題が年初にはあったものの、新型コロナウイルスの感染拡大により、住民生活、教育、経済、文化など全般に暗い影を落とし、試練の時をとなりました。

しかしながら、禍福は糾える縄の如し、このような状況であるからこそ、人口密集が過度ではなく自然に恵まれた地の利を再確認するとともに、町民各位の絆やつながりを考える契機とし、地域一丸となって地域の未来を考える時間を持てれば幸いであると認識しています。

さて、行政運営におきましては『町営ガス事業』『旧給食センター』『荒船の湯』などを民間譲渡し、行政のスリム化による行財政改革を積極的に推進し、町民の皆様の負担軽減に努めて参りました。

また、『旧西中学校』の校舎を解体し、その跡地に『西牧防災広場』を設置するなど、地域資源の有効利用を図りつつ、地域防災力の強靱化を推し進めているところであります。

いずれの施策も地域に活力を与え、住民の方々が安心して生活ができる基盤を築くことが目的であり、今後も山積する課題に正面から向き合っていく所存であります。

結びに、本町勢要覧が有効に利用され、かつ各種データに改善の兆しを記すことが出来るよう鋭意努力して参ることを約束し、発刊に係る挨拶とします。

下仁田町長 原 秀男

下仁田ジオパーク

～日本列島の誕生をひもとく根無し山～



青岩公園

2011年9月、日本ジオパーク委員会（JGC）理事会において日本ジオパーク認定され、「下仁田ジオパーク」が誕生しました。

下仁田町は、日本の地質100選にも選ばれている『跡倉クリッペ』をはじめ、日本列島が現在の形になるまでに起こってきた大地の活動の証拠が集中して見られる地域で、日本列島形成の秘密を握る場所とも言われています。

また、様々な地殻変動を受けたこの大地に住む人々は、特異な地質が作り出す地形・風土を利用してきました。天然の冷風を利用し生糸の増産の下支えをした荒船風穴や石灰の採掘など独特な産業で生計をたててきました。

下仁田町の特産物下仁田ネギもこのジオパークの独特の土壤気候などによって生み出され、この地域以外では同じ味はだせないとも言われています。

以上のように下仁田町は、壮大な大地のストーリーと人々のつながりを楽しみ、大地から生まれた食材を味わうことのできる公園「ジオパーク」を推進しています。

2010年（平成22年）4月からは、廃校になった青倉小学校を下仁田町自然史館として利用し、ジオパーク推進の拠点とするなど、受け入れ体制も整備しています。

今まで下仁田町は、地質の研究者などからは「興味深い、面白い」と言われていましたが、今後は、その面白さを一般の人にも伝え、町全体で盛り上げてジオパーク活動を続けていきたいと考えています。

なお、東日本大震災以降、ジオパークの役割として防災・減災についての教育や調査などがクローズアップされてきました。

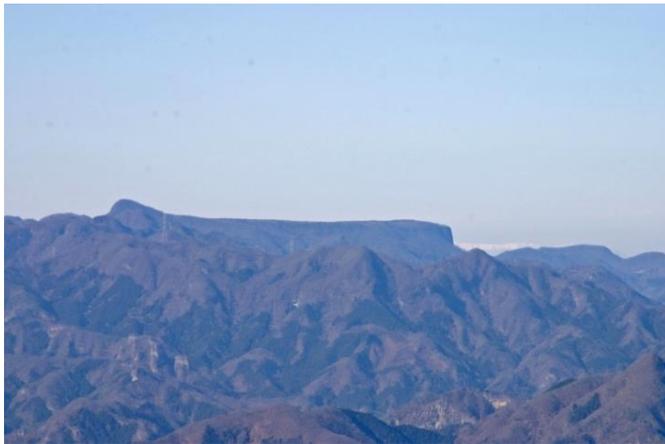
過去の震災や水害の被害状況の把握なども行い、今後の町防災活動にもつなげていきたいと考えています。

～ジオパークで再発見・ふるさとの魅力～

下仁田の水と緑を歩こう①

～荒船山～

起伏に富む上信国境の山並みの中に、独特の姿を浮かべる荒船山。悠然としたその山容は、大海に乗り出す船のよう。



荒船山

荒船山は、下仁田町の西部、長野県境にあり、南北に約2キロメートル、東西約400メートルの巨大な溶岩台地です。平坦な頂上部が続く山容が、荒波を蹴って進む船を思わせることからその名がつけられたと言われ、一昔前までは、雨乞いの山として下仁田の人々の信仰を集めていました。

登山ルートはバラエティーに富み、比較的手軽に登れることから、春から秋にかけて多くの登山者が訪れます。一般的な登山ルートとして人気があるのが、内山峠から鱸岩(ともいわ)を目指すコースです。荒船山北端にそびえる鱸岩は、高さ約200メートルの岩壁が垂直に切れ落ちていて、ここから望む景色は絶景です。優美な浅間山や急峻な妙義山が眼前に迫り、また遠く北アルプスの山並みも望められます。

頂上一帯は、笹原に覆われていて、最高地点の経塚山(標高1422メートル)へと平坦な道が続きます。経塚山には祠があり、その昔、弘法大使がここに経塚を作ったという伝説が残っています。

荒々しい岩壁と優美な笹原で動と静の魅力にあふれる荒船山は、西上州の名山として愛されています。



秋の荒船山

下仁田の水と緑を歩こう②

～妙義山～

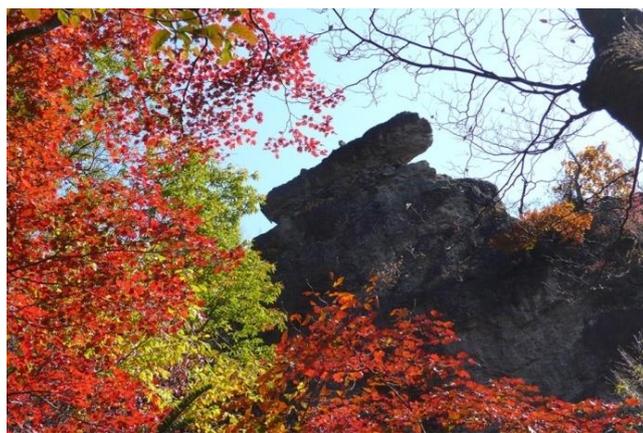


妙義山と桜

特に下仁田側から眺望できる金洞山は、別名、中之嶽とも呼ばれ、昔から下仁田町民に親しまれてきました。奇岩がいたる所に見られる妙義山の中でも、この中之嶽の景色は圧巻です。中腹をめぐる第一石門から第四石門をはじめ、ロウソク岩、大砲岩、筆頭岩、ユルギ岩、虚無僧岩こむそうといったユニークな名前をつけられた特徴ある岩石群は、日本屈指の山岳美としてたたえられています。

特に、第四石門からの眺めは素晴らしく、一帯の風景を一日見ても飽きないことから「日暮らしの景」と呼ばれるほどです。春には、麓にある「さくらの里」に植えられた5千本もの桜が、春霞のように辺りを覆いつくします。また、秋には紅葉狩りに訪れる人でもにぎわいます。

これらの石門、石群を巡るコースは、中之嶽神社が起点となっています。中之嶽神社は古くから妙義山信仰の拠点となった由緒ある神社で、日本武尊と大国主命がまつられています。



妙義山大砲岩

険しい岩肌と柔らかな木々の調和。自然が作り上げた壮大な造形美。奇岩の連なりが、息をのむ迫力です。

九州の耶馬溪、四国の寒霞溪とともに、日本三大奇勝として有名な妙義山。その峰々が作り出す四季折々の美しい表情に、人々は魅了されます。妙義山は、白雲山、金洞山、金鶏山、相馬岳、御岳、丁須の頭などをあわせた総称で、南側の表妙義と北側の裏妙義に分かれています。

下仁田の水と緑を歩こう③

～神津牧場～

広大な空を気ままな旅人のように流れる雲。
大空の下には、のんびりと草を食む牛の群れ…。
おいしい空気がいっぱい。



神津牧場 全景



ジャージー牛の行列

長野県境の物見山東斜面に広がる神津牧場は、明治 20 年に開設された、日本で最初の高原式洋式牧場。標高 1000 メートル、敷地 387 ヘクタールの広大な敷地に、約 200 頭のジャージー牛が放牧されています。牧場体験、動物とのふれあいなど、家族連れで楽しめるレジャースポットです。

平地より春が遅い牧場では、5 月下旬が最も彩り鮮やかな季節です。桜をはじめとした花々が咲き、毎年第三日曜には花祭りも開かれます。花の中を牛の群れがゆっくりと通り過ぎていく様子は、いかにも牧歌的。また、オオルリ、カッコウ、リスやキツネなどの野生動物も多く、牧舎裏手の丘からは、浅間山、妙義山をはじめ周辺の山々を一望することができます。

周辺を散策して心地よい汗をかいたら、ジャージー牛の搾りたての牛乳やソフトクリームでリフレッシュ。茶色の毛並みのジャージー種は、ホルスタイン種より脂肪含有量の高い乳が得られ、おいしさは満点。

親水護岸や宿泊施設も整えられ、研修、レジャーと町内外の人々に幅広く活用されています。

文化財

～町の文化財を大切に守り、

後世へと伝えていく～

下仁田町には、1件の国指定史跡と1件の県指定史跡と27件の町指定文化財があります。その時代、時代にあった生活の中から生まれ育ってきた文化、その遺産こそが文化財です。

貴重な文化財、文化遺産を大切に保護し、後世へと語り継いでいく必要があります。指定文化財を訪れる愛好者や町民に分かりやすく解説し、愛護を訴えるため、説明版の設置も行っております。

町指定文化財であった荒船風穴については、中之条町の東谷風穴と共に、平成22年2月22日付で官報告示され、「荒船風穴・東谷風穴蚕種貯蔵所跡」として国指定史跡となりました。そして平成26年6月25日付で「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産として、世界文化遺産登録となりました。



荒船風穴

歴史の証を未来へ。

下仁田町の歴史をたどると、旧石器時代から人々の暮らしが営われていたことが分かります。上信越自動車道の建設に伴って発掘された下鎌田遺跡や杣瀬遺跡をはじめ、鐮川流域には、原始・古代の遺構がたくさん残されています。



明治期の製鉄所

中世の遺物としては、板碑など数多くの石造物が発見されています。また、戦国期の遺構として、鷹の巣城、西牧城など十三の城跡も見られます。

近世には、鐮川筋を中山道の脇往還が通り西牧関所が置かれました。この街道は姫街道とも呼ばれ、信州佐久からの米の輸送路でした。米の他には麻、砥石、絹、楮などが運ばれ、信州と上州の交易地として下仁田町は重要な役割を果たしていました。

また、幕末に起こった下仁田戦争は、下仁田を主戦場に水戸浪士（天狗党）と高崎藩が戦った事件で、弾痕の残る土蔵や犠牲者の墓などが、往時の出来事を今に伝えています。

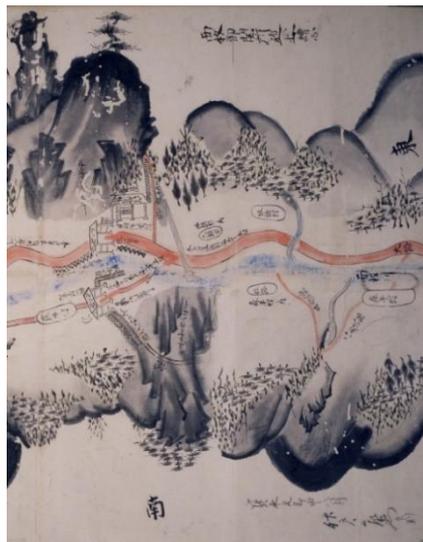
明治になると、官営中小坂鉄山が日本初の蒸気機関による熱風送風を備えた木炭高炉で操業を始めました。

また、下仁田町の繁栄を支えたのが養蚕製糸業でした。

明治30年に高崎—下仁田間に開通した軽便鉄道である「上野鉄道」は鐮川流域の経済発展に欠かせない交通手段と物流の要として利用されました。

生糸・繭・石炭・砥石・鉄鉱石などが主に輸送され、大正10年に現在の上信電鉄に社名を変更し、大正13年の電化まで大きな貢献を果たしました。

悠久の歴史を誇る下仁田町には、人々の暮らしや信仰に基づくさまざまな歴史の証が残されています。また、歴史をたどることで町内や鐮川流域の自然資源を利用して生活をしてきた先人の知恵や苦勞を窺い知ることができます。先人の遺産として大切に次の時代へ引き継いでいきたいものです。



西牧関所

特産物

～やっぱり 下仁田ブランドだね～

下仁田の美しい水と緑は、様々な特産品を生み出してきました。中でも、下仁田ブランドとして全国的に名をとどろかせているのが、ねぎとこんにゃく。下仁田といえば「ねぎとこんにゃく」というほどイメージが定着しています。その他にも、しいたけなど、豊かな自然の恵みを受けた下仁田の物産は、どれも全国に誇れる逸品ぞろいです。



下仁田ねぎ

天下一の下仁田ねぎ

下仁田ねぎは、江戸期以来珍重されてきた下仁田の特産品です。日本のねぎの中でも白根が太く大きいのが特徴で、煮ると短時間でやわらかくなり、そのとろけるような甘さと舌触りは絶品。この独特な風味は、先人達の努力によって誕生しました。長野県と群馬県農業試験場で栽培を行ったところ上手く育成せず、粘土質が強く礫を含んだ当地域の土壌や気象条件により、良質な下仁田ねぎが生産されると考えられます。まさに下仁田ならではのブランド品といえるでしょう。



こんにゃくいもと栽培風景

歴史を誇る下仁田こんにゃく

一方、こんにゃくは、永正2年(1505)に、大日向村の茂木家で紀州から種芋を買い入れ植え付けたと伝えられています。明治22年に下仁田の森沢川にこんにゃく製粉用の水車が設置されてから次第に生産量が増えていきました。明治26年以降、急速に栽培が拡大し、下仁田こんにゃくとして全国の市場に出回るようになりました。水はけのよい傾斜地を利用して栽培され、現在は、町外への出耕作が主流ではありますが、製粉業は盛んに行われています。

こんにゃくは鍋物のほか、味噌田楽、おでん、刺身などに広く用いられる食材ですが、近年ではゼリーなど菓子類や食パン等にも加工され、おいしくてダイエットにも効果があるということで、人気を博しています。



特産品 しいたけ

豊富な林産資源から、しいたけ・杉材

下仁田はしいたけの産地としても有名です。豊富な林産資源と最適な環境を生かして生産される下仁田のしいたけは、肉厚で品質がよく、贈り物としてもたいへん喜ばれています。

町の8割以上を山や谷に囲まれた下仁田は、製材業も盛んです。下仁田産の杉材は、高品質の建築材料として知られ、住宅をはじめ多方面の建築物に広く使われています。

自慢の下仁田ブランド

その他にも下仁田の特産品としては、下仁田焼や神津牧場で作られているジャージー種特有の濃厚な味と香りが自慢の乳製品などがあります。

また、大正時代からの伝統の味を受け継ぐ「下仁田カツ丼」も有名で、揚げたてのカツをサッと醤油だれにくぐらせた、甘辛い味が特徴です。町内の各店舗でカツ丼スタンプラリーも実施されているので、各店舗こだわりの味を食べくらべてみてはどうでしょうか。

花

～豊かな自然が語りかけてきます～

さくらの里

妙義山の南面山麓に広がる斜面一帯を利用して園地になっているさくらの里。面積は、何と約47haで、園内には歩道や四阿が整備されているほか、野外ステージもあります。

園内に植えられた桜は、約45種5,000本。ソメイヨシノのほか、カンザン、フゲンゾウなどの八重桜も多いため咲く時期が異なり、4月中旬から5月上旬までの長い期間桜を楽しむことができます。

雄大な妙義山と桜のコントラストは圧巻です。



八重桜と妙義山

あじさい園



あじさい園と四ツ又山

下仁田町の東の玄関口に位置し、平成16年度から町が中心となり、あじさいの苗木の植栽に着手。それを引き継ぐ形で、地域有志を中心に「紫陽花を育てる会」が発足し、保育、管理を行っています。

あじさい約2万本、サルスベリ約1千2百本。本数では群馬県内1番、関東でも有数のあじさい園です。

下仁田ICからすぐそばで、園内遊歩道も整備され歩きやすくなっていますので、ぜひ一度ご来園ください。

姫街道もみじライン

下仁田町本宿から軽井沢町へと続く県道下仁田軽井沢線、通称姫街道もみじライン。10kmにわたる街道沿いが2,000本のもみじで真っ赤に染まり、県内外から多くの観光客が訪れます。

「もみじライン推進協議会」を中心に地域の方々の協力により、下草刈りやもみじの植栽など、より多くの方に楽しんでいただけるよう整備が行われています。



もみじラインの紅葉

虻田福寿草の里



福寿草と紅梅

福寿草の里は下仁田町大字中小坂の虻田地区にあり、古くから福寿草の自生地でした。平成13年から虻田地区住民有志により株分けを行い、遊歩道や四阿を整備するなど大切に育ててきました。

開花する2月中旬から3月中旬にかけて、2ヘクタールの山里の斜面一面に、黄色い福寿草の花と1千本の紅梅が咲き誇ります。

下仁田町のあゆみ

昭和30年～平成30年

昭和30年代

5町村が合併して、下仁田町誕生

昭和30年	3.10	旧下仁田町、馬山村、西牧村、小坂村、青倉村が合併し、下仁田町が誕生
	4.15	町長改選（千野孫十郎）
昭和31年	11.3	下仁田小学校講堂落成
昭和32年	2.7	馬山中学校特別校舎起工
	2.17	上水道敷設工事計画実施進行
	3	し尿処理場完成（東町）
	11.8	鏑川用水の路線測量始まる
	11.10	土谷沢にバス運行
昭和33年	5	和美峠に自動車道開通
	11	常備消防発足
	11.15	下仁田酪農協同組合設立
昭和34年	6.6	小坂小学校北分校校舎落成
昭和35年	4	下仁田町商工会新発足
	8.7	土谷沢分校落成
	11.24	青倉中学校建設着工
昭和36年	3.25	町長改選（竹内欽之助）
	11.2	下仁田町観光協会設立
昭和37年	8.1	救急活動始まる
	11.22	町営ガス事業を町議会で議決
昭和38年	1.19	第一回生しいたけ共進会開催
	5.14	製茶工場の新設
	9	給食センター新築
	10.18	アサヒゴム工場誘致決定
昭和39年	4.4	ガス工事起工式
	4.30	町長改選（赤岩寿雄）
	9.1	下仁田町農協合併
	9.28	ガス供給開始

昭和40年代

小・中学校や公民館など、文化教育施設が充実する。

昭和40年	4.1	町章決定
	7.1	森林組合合併（下仁田・小坂・西牧）
	12.28	群蚕工場閉鎖
		林業構造改善事業第一次指定
昭和41年	6.11	下仁田町開発協会設立
	11.28	妙義荒船スーパー林道起工
昭和42年	4.1	下仁田電報電話局開局
	11.21	西牧青少年広場完成
昭和43年	9.10	町長改選（中村栄一）
	9.21	上水道第二次拡張工事着工
	9	こんにやく火力乾燥工場完成
	10.1	こんにやく組合事務所新築
	11.3	統合中学校校舎落成（東・西）
		農業構造改善事業開始
昭和44年	4.10	妙義・荒船・佐久高原国定公園指定
	8.5	下仁田町産業振興委員会発足
昭和45年	3.1	統合中学校屋内運動場完成
	5.22	中央公民館完成
	7	東中学校プール完成
	9	鐺川土地改良青倉ゲート完成
	10.21	緑ヶ丘住宅団地完成
昭和46年	3.31	ゴミ焼却場新設
	4.25	町長改選（今井七五三次）
		富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合設立
	11.3	下仁田町史編纂発行
昭和47年	1.31	商工会館新築
	3.31	妙義有料道路開通
	3	下仁田小学校校舎新築
	3	下仁田町総合計画策定
	4.1	広域常備消防化
	10.3	農業振興地域指定
昭和48年	4	馬山小学校・西中学校プール完成
	10.10	広域基幹林道七久保橋倉線着工
昭和49年	4.1	甘楽西部環境衛生施設組合設立
	4.27	青倉児童館完成
	6.11	西部社会福祉センターオープン

	11.18	役場新庁舎落成
--	-------	---------



(旧東野牧小)



(旧小坂小)

昭和50年代

町営住宅、上水道など、生活環境整備が進む。

昭和50年	4.27	町長改選（神戸半三）
	6.20	ガス供給所タンク完成
昭和51年	4.1	小坂簡易水道完成
昭和52年		こんにやく価格大暴落
		妙義山に1万2千本の桜を植栽
昭和53年	1.1	下仁田厚生病院公立となる
	4.5	国道内山峠一部開通
	12.15	本宿診療所完成
		西牧南小学校屋内運動場完成
昭和54年	3	町営住宅しらかば団地完成
	7.13	農村定住事業指定
	10.12	馬山小学校校舎完成
		下仁田保育園完成
昭和55年	3.3	西牧小学校屋内運動場完成
	3.25	ふるさとセンター完成
		下仁田保育園完成
昭和56年	2.20	青倉簡易水道新設工事完成
	3.3	小坂小学校屋内運動場完成
	3.14	下仁田幼稚園園舎完成
	3	土谷沢分校閉校
	5.8	関越自動車道上越線（藤岡～松井田間）路線の発表
	7.19	町営宿泊施設栗山荘オープン
	10.29	東部大橋開通

	10	下小坂大橋完成
	11.30	西部簡易水道新設工事完成
昭和 57 年	2.10	西牧小学校新校舎完成
	3.29	関越自動車道上越線（松井田～佐久間）路線の発表
	4.8	町営バス運行開始（青倉・馬山）
	5	第三期山村振興事業認定
	6.19	上水道第五次拡張事業完成
	10.31	生産物直売所完成
昭和 58 年	3.19	学校給食共同調理場完成
	3	町営住宅吉崎団地完成
	4.1	さくらの里オープン
	4.24	町長改選（青木茂雄）
	4	下仁田消防署完成
	7.15	新林業構造改善事業認定
	12.10	西牧多目的集会所完成
昭和 59 年	1.31	青倉小学校屋内運動場完成
	8.7	不通橋完成
	11.28	新農村定住事業指定



(さくらの里)

昭和60年～平成6年

上信越自動車道開通。文化ホールやふれあい学習センターができる。

昭和60年	1.24	代行林道中之岳線完成
	2.22	小坂小学校校舎完成
	3.30	町営吉崎テニスコート完成
	4.1	小坂三小学校統合
	10.12	下仁田町の花(桜)、木(杉)、鳥(うぐいす)指定
		下仁田町民憲章制定
		下仁田警察署完成
昭和61年	2.25	かぶら保育園完成
	3.24	下河原グラウンド拡張工事完成
	3.25	ゴミ焼却場(焼却炉棟)完成
	3.30	町長改選(小井土潑太郎)
	3.31	妙義有料道路無料開放
	4.1	西牧三小学校統合
	5.1	さくらの里きのご館開所
	7.28	下仁田小学校プール完成
		国道254号線馬山バイパス着工
		過疎山村地域基幹道路(県代行)若宮一蒔田線着工
昭和62年	2.28	西牧小学校屋内運動場完成
	4.24	下仁田町文化ホール完成
	7.30	矢川コミュニティセンター夜間照明施設完成
	11.10	こんにゃく乾燥工場完成
昭和63年	2.29	馬山小学校屋内運動場完成
	3.19	町営住宅東団地完成
	3.25	下仁田町農協こんにゃく加工場完成
	4.24	さくらの里野外ステージ完成
	4.27	町営迷路オープン
	6.13	西牧小学校プール着工
	10	幼児健診でむし歯予防のためのフッ素塗布開始

平成元年	8.9	国道 254 号内山道路全線開通
平成 2 年	4.1	防災行政無線を導入
	5.23	もみじライン植栽開始
	7.2	青倉小学校新校舎落成
	9.2	サン・スポーツランド下仁田完成
平成 3 年	10.1	町営バス運行開始（小坂・西牧）
平成 4 年	3.30	林業総合センター完成
	10.16	国道 254 号馬山バイパス開通
平成 5 年	3.27	上信越自動車道（藤岡～佐久間）開通
	3.30	下小坂グラウンド完成
	3	道平川ダム完成（荒船湖）
		保育園でのむし歯予防のための集団フッ素洗口開始
平成 6 年	3.30	町長改選（神戸文夫）
	5.24	ふれあいセンター完成



（下仁田 I C）



（もみじライン）

平成 7 年～ 1 6 年

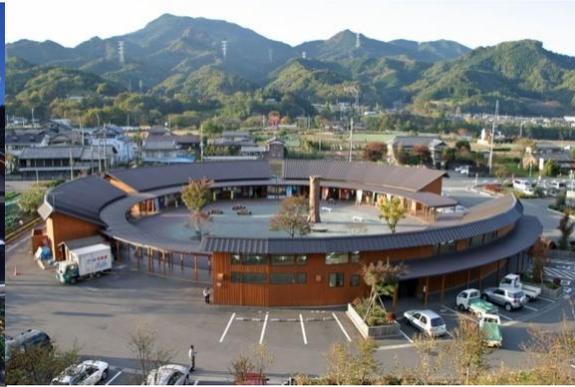
ほたる山公園、道の駅しもにたが完成。

平成 7 年	1.4	南野牧で温泉ボーリング開始
	3.31	農村公園完成
	6	石淵住宅団地分譲
	8.1	“下仁田の水”を製造販売開始
	11.7	火葬場火葬炉全面改修
平成 8 年	2	下仁田南牧クリーンセンター完成
	5.8	上信越自動車道Ⅱ期線工事着工
	10.8	老人保健法による保険事業推進に対し表彰される（厚生大臣）
	11.15	体験交流センター（荒船の湯）建設着工
	12.25	下仁田町活性化センター完成
平成 9 年	3.2	グリーンヒルかぶら住宅団地分譲開始

	8.3	西下仁田温泉荒船の湯営業開始
平成 10 年	4.23	新合之瀬橋開通
	9	下仁田駅駐輪場整備
平成 11 年	3	林道御場山線完成
	4.19	下仁田第 1 ニュータウン分譲開始
	4.25	林道奥山六車線西平橋完成
	5.10	上信越自動車道八風山トンネル貫通
	6.5	下仁田町自然史館開館（下仁田町自然学校活動を始める）
	9	下仁田駅関東の駅百選に選ばれる
平成 12 年	2	小中学生対象にむし歯予防のための家庭でのフッ素洗口開始
	3.20	矢川コミュニティセンター完成
	5.1	上水道宮畑浄水場完成
	5.1	上馬山・馬山東部・杣瀬各簡易水道が上水道に統合
平成 13 年	2.1	ゴミ分別収集開始
	3.27	平成橋開通
	3	最終処分場「クリーンポケット」完成
	4.1	ほたる山公園オープン
	4.1	財務会計システム導入
平成 14 年	3	ゴミ焼却場全面改修
	3.30	町長改選（金井康行）
	12.5	第 12 回群馬県歯科保健大会において歯科保健賞受賞（（社）群馬県歯科医師会会長）
	12.16	新明治橋開通
平成 15 年	3	資源化施設「リサイクルセンター」完成
	11	下仁田中学校校舎落成
	12.6	道の駅「しもにた」オープン
	12	上信越自動車道Ⅱ期線工事完成
平成 16 年	4.1	東中学校と西中学校が下仁田中学校に統合
	4.1	地域インターネット整備事業
	12.5	町長改選(岡田常夫)



(荒船の湯)



(道の駅しもにた)

平成17年～23年

平成17年	3.31	町立下仁田保育園閉園、同年4月1日社会福祉法人青倉会に移管
	7.24	むし歯予防のためのフロリデーション(水道水フッ素濃度適正化) モデル装置完成
平成19年	1.30	世界遺産暫定リストに登載「富岡製糸場と絹産業遺産群」に「荒船風穴」「上野鉄道関連施設(鬼ヶ沢橋梁・下仁田倉庫(株) 赤レンガ倉庫)」
	7.21	「こんにやく手作り体験道場」完成使用開始
平成20年	12.5	町長改選(金井康行)
平成21年	4.1	青倉小学校が下仁田小学校に編入統合
	8.20～23	地学団体研究会第63回総会(下仁田)開催
平成22年	1.1	ジオパーク下仁田協議会発足
	2.22	「荒船風穴」、東谷風穴と共に国指定史跡となる
	3.2	第1回ジオパーク下仁田協議会が開催され、本格的な活動が始まる
	3.31	町立かぶら保育園閉園
	4.1	旧青倉小学校に下仁田町自然史館が移転
		ジオパーク推進室が新設され、事務所を下仁田町自然史館内に置く
	7.21	「ふれあい学習センター」が「下仁田町公民館」に名称変更
11.20	下仁田町自然史館展示室オープン	

	11.24	練馬区と災害時応援協定締結
平成 23 年	3.7	下仁田中学校屋内運動場落成
	3.28	馬山多目的運動場「馬山多目的グラウンド」落成
	4.21	下仁田ジオパーク構想・日本ジオパーク申請書を協議会で承認
	4.25	日本ジオパーク申請書を提出
	5.26	下仁田小学校校舎（第Ⅰ期）落成
	6.5	四ッ又山から 50 年ぶりにアンモナイトが発見される
	9.5	日本ジオパーク委員会において「下仁田ジオパーク」認定となる
	9.29	『第 2 回日本ジオパーク全国大会 2011 洞爺湖有珠山大会』で認定証を受ける
	10.7	下仁田葱の日を11月 ^{いい ふうみ} 23日（祝）と制定
平成 24 年	3.19	下仁田小学校校舎第Ⅱ期落成
	3.31	町立下仁田保育園閉園
	3.31	町立西牧小学校閉校
	3.31	町立小坂小学校閉校
	3.31	町立馬山小学校閉校
	3.31	町立下仁田小学校閉校
	4.1	町内 4 小学校統合
	4.1	町立下仁田小学校開校
	4.1	郷土学習 下仁田学習スタート
	8.10	中学生の提案をうけて 上信電鉄 ジオトレイン運行スタート
	8.28	ジオと歴史遺産応援団学習会スタート （ジオガイド）
	12.6	町長改選（金井康行）

平成 25 年	1.31	「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録の推薦書（正式版）をユネスコへ提出
	6.1～2	化石研究会総会 下仁田総会開催
平成 26 年	2.12	下仁田町自然史館 展示室改修
	3.16	下仁田厚生病院竣工式が開催される
	6.25	「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つとして荒船風穴が世界遺産登録
	8.12	道の駅 観光案内所オープン 道の駅 発 定期ジオツアースタート
	11.22	金剛萱遺跡の局部磨製石斧発見される。
	11.22～23	全国ねぎサミット 2014in ぐんま下仁田が開催
平成 27 年	4.1	下仁田町歴史館 ふるさとセンターから改称
	4.1	町営の簡易水道及び小水道と上水道が統合
	5.20	役場庁舎の耐震補強工事が完了
	7.13	毎月 20 日を下仁田ジオパークの日(ジオの日)に指定
	11.7～8	高崎商科大学 観光シンポジウム開催
平成 28 年	1.28	「道の駅しもにた」が重点道の駅に選定される
	3.31	下仁田町自然史館研究報告 創刊
	4.1	ジオパーク下仁田協議会 推進運営委員会 専門部会（ガイド、教育、産業観光、学術） 設立
	5.	群馬県の石に「鶏冠石」が選定される
	8.21	夏季巡回ラジオ体操会が開催
	11.20～21	『日本ジオパーク関東大会 in 下仁田』開催
	12.5	町長改選（原秀男）

	3.16	学校給食共同調理場完成
	3.24	南牧村との学校給食に係る事務の委託に関する協定書締結
平成 29 年	4.1	下仁田町学校給食共同調理場移転 名称を下仁田町学校給食センターに変更
	4.10	南牧村へ学校給食調理及び搬送業務開始
	8.27	公民館事業として「下仁田学」が始まる
	12.22	日本ジオパーク委員会において「下仁田ジオパーク」再認定となる
平成 30 年	8.25～ 26	第 5 回全国風穴サミット in 下仁田が開催
平成 31 年	3.31	町ガス事業終了【東海ガス（株）へガス事業譲渡】